

# 留萌ロータリークラブ 会報

2006▶2007  
WEEKLY REPORT

会長/中川 勝美 幹事/対馬 健一



## 率先しよう

2006~2007年度  
国際ロータリーのテーマ

No. 2259 第20回 11月29日

### プログラム

- 本日  
年次総会
- 次週予定  
年忘れ家族会

会員誕生日  
11月29日 石川 健治  
12月3日 対馬 健一

ご夫人誕生日  
12月1日 山本由紀子

留萌ロータリークラブ会長テーマ  
魅力ある明るく楽しいクラブは、  
ロータリーを知り、  
会員家族との親睦から

### 出席委員会報告

前例会  
会員総数.....51名  
出免会員.....8名  
欠席会員.....12名  
出席率.....72.09%

前々回  
第17回 11月1日  
欠席会員.....7名  
メイクアップ.....0名  
修正出席率.....83.72%

例会/毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

### 会長報告 .....

- 例会前に臨時理事会を開催し、審議事項の4項目を承認しました。
  1. 留萌地方特殊教育連盟に社会奉仕委員会から10万円の助成金の承認と、同時に特殊学級児童生徒の学習発表会の案内を頂きましたので、会長、幹事、委員長の3名で出席する事と致しました。  
日時：11月28日 午前10時より  
留萌中央公民館 小ホール
  2. 留萌みなとライオンズクラブよりクリスマスパーティーの案内状をいただきました。ご祝儀を持って私が出席致します。
  3. 12月6日の年忘れ家族会の企画内容を親睦委員会より報告があり、承認致しました。また、同時に11月23日に結婚50周年の金婚

式を迎えられた深瀬会員と、12月22日で満60歳の還暦を迎えられる二ノ宮会員のお祝いも兼ねて行う事を承認致しました。

- 4. この度、関野会員が自宅を新築されましたので留萌ロータリークラブ慶弔内規第5条により、お祝いをする事を承認致しました。
- 11月11日に留萌駐屯地音楽隊演奏会に出席して来ました。大変すばらしい演奏会で、留萌市文化センターに700名ほどの観客で、盛会裡に終了致しました。また、留萌駐屯地指令の荒閑様よりクラブに支援強力の礼状をいただきました。回覧いたします。
- 次週例会は年次総会です。なるべく欠席のないようにお願いします。

## 幹事報告 .....

- 1) 2005～06年度地区要覧を受領致しました。  
河部前会長、二ノ宮前幹事、田中地区国際奉仕委員にお渡し致しました。
- 2) ガバナー事務所より11月7日の佐呂間町での竜巻被害に対し、救援募金を行う事になりました。各クラブ単位での募金ということで、12月25日締め切りです。
- 3) バギオ基金の2005年度報告書を受領しました。回覧いたします。

## 3分間情報 .....

情報委員会

行徳副委員長

財団寄付に対しては表彰制度があり、年次寄付は1000ドルの寄付者にポール・ハリス・フェロー(PHF)の称号が与えられます。毎年100ドル以上寄付をすると誓約した人は「財団の友」会員となります。従来の財団準フェローに当たります。ポール・ハリス・フェローは更に1000ドルを寄付する事によりマルチプル・フェローとしてブルーの石が付いた金色の襟章が贈られます。この様な寄付を重ねると最高五つの石の付いた襟章を受け取る事が出来ます。更に1000ドルを寄付するとルビー色の石が付いたピンを最高三つまで受け取る事が出来、その上1万ドル、2万5千ドル、10万ドルと達成するごとに、ダイヤモンド・サークル・ピンを受け取る事が出来ます。また、1万ドル以上の大口寄付についてはクリスタル製の置物が贈られます。但し、これらのフェローは寄付時にその旨を申請する必要があります。

基金寄付に対しては、1000ドル以上の寄付者(あるいは寄付を資産計画に書き残して財団に通知した人)に「ベネファクター」の称号が贈られます。

.....

〈前週分〉

### 財団恒久募金が5億ドルを超える

9月、世界中のロータリアンからの献身的な支援によって、ロータリー財団の恒久基金の総

額が、5億米ドルを超えました。

1982年に創設された恒久基金は、すべての財団プログラムに向けて資金を提供し、財団の将来にとっての安定した財源となっています。とりわけ、1994年以来、その資金は6倍になり、昨年度では、元金はそのままで、プログラムに拠出できる収益は490万ドルを計上しました。

恒久基金は、創設当初から、資金を必要としている人々に貢献し、ロータリーの主要な目標を実現へと近づけてきました。2002年に発足した国際研究のためのロータリー・センター・プログラムは、その顕著な例です。

恒久基金の次なる目標は2025年までに10億ドルを達成することです。そのとき、プログラムの資金は現在の10倍となり、世界に貢献する規模も拡大します。

### [ミニ情報]

名物に旨いもの無しと申しますが「お土産」を選ぶのも、旅の楽しみの一つという方もおられます。

三重県伊勢神宮の鳥居前には「おかげ横丁」という土産物街があり、「お伊勢参り」の定番土産と言いますと「赤福」ですが、内宮を流れる五十鈴川の白砂利を白い餅で、こし餡の模様でせせらぎを表した。と言われるあんころ餅ですが、なんと年間104億円も売り上げ、この種で単品では日本一だそうです。材料の餅米も小豆共に北海道産です。

ちなみに第2位は北海道・六花亭の「マルセイ・バターサンド」の75億円、3位は石屋製菓の「白い恋人」の70億円だそうです。



## 二つ二つBOX .....

- 前例会に昨年度の活動報告書をお渡しする事が出来ました 幹事の仕事を全て終わる事が出来ました ありがとうございます

二ノ宮会員

- 初孫誕生しました 関野会員

- 会報に写真載りました

中川会長、西谷(英)会員

・田中会員よりDVDをいただきました

澤田会員

前 回	537,000円
今 回	16,000円
累 計	553,000円

 プログラム・・・・・・・・・・

「社会福祉協議会の概要」

留萌市社会福祉協議会

事務局長 大澤 貞閑様

只今、紹介をいただきました、社会福祉法人留萌市社会福祉協議会の事務局長を担当しております大澤と申します。

奉仕団体としてのロータリークラブと会員の皆様から、物資両面にわたる沢山のご支援と援助に、この場を借りまして感謝申し上げます。

今回は、大変貴重な例会の中、30分の時間を頂きましたので、既にご承知のこととは思いますが、私どもの社会福祉協議会につきまして、今少しご理解を頂きたく、お話をさせて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

社会福祉協議会は、社会福祉法という国の法律で社会福祉法人として認められた公共性の高い民間団体という事で、全国の都道府県市町村に必ず1つ設けられている組織です。北海道で言えば、北海道と全市町村で合計218の社会福祉協議会があるわけです。

いま市町村の平成の大合併問題が一区切りしましたが、第2弾の合併問題が取りざたされておりますので、市町村の合併と同時に、社協も合併という事になりますので、市町村の合併作業と同じ位大変な作業があるわけでありまして。市町村の仕事は根っこには法律・条令・規則によってなされているわけですが、社協は法律ではなく、その時代のニーズ・地域の実情・財源・経営状況等々により、それぞれの社協の活動・事業がまちまちなのが実態であるがため、大変難しいものがあると考えられます。

ところで留萌市社会福祉協議会は、頭に留萌市と付く事で留萌市役所の機構の一部のように



思われますが、今申し上げた様に別な組織となっております。ここで留萌市社会福祉協議会のおいたちについてお話いたします。昭和26年3月に社会福祉事業法が制定され、社会福祉協議会という言葉が明文化されます。同年6月に留萌市社会福祉協議会が設立され、初代会長に伊佐津和平氏が就任いたします。昭和44年6月社会福祉法人設置認可、同年8月法人設立登記、当時の会長は吉沢雄次氏でした。昭和26年当時は、戦後の衣食住に大変な社会情勢に加え、引揚者、戦没遺家族等々、貧困者救済のため、「与える福祉・与えられる福祉」が主たる活動で、役員の多くは民生委員（昭和23年設立）の方々も兼ねていたようです。また、当時の公衆衛生の状態が良く判る活動として、全道規模で「ハエや蚊をなくす運動」が展開されたそうです。

全道各地に愛情銀行が設置されたのも、この30年代で、留萌では昭和39年のことでした。40年代にはボランティア活動が大きな広がりを見せ、50年代には地域福祉、在宅福祉の必要性が叫ばれ始め、そして60年代には本格的な地域福祉、在宅福祉への取組みがなされました。この背景には昭和61年に長寿社会対策大綱が閣議決定された事もあり、様々な在宅サービスが実施されました。平成になりましてからはご承知の通り、平成12年の介護保険制度や平成15年の障害者支援費制度の導入、福祉権利擁護事業、平成18年には障害者自立支援法の施行等、従来の行政側が与える福祉制度から、利用者が自由に業者を選択し、契約による福祉事業（お世話になる福祉から利用者が選ぶ福祉）に変化しているのが今の福祉サービスといえると思っております。

## 第19回 11月22日(水) 天候/雨

私ども社協も、居宅介護支援事業所/介護保険ケアプラン作成、居宅介護事業所/従来の支援費制度「ホームヘルプ事業」も実施しております。高齢者・障害者を抱えての生活にはそれぞれの環境があり、一概には言えませんが、施設での生活よりも許されるなら、在宅で両親、親子、兄弟姉妹と、専門職のヘルパーの手助けと一体となって生活する方が...と思いますが、なかなか難しい問題だと思います。

今色々な所で少子高齢化社会という言葉を目にしますが、留萌市も7月末で留萌市の総人口に占める65歳以上の割合が23.6%となっているのが現状でよく認識するべきです。

ところで、福祉って、地域福祉ってどんな事？といわれるとなかなか答えづらい物がありますが、住み慣れた地域で、個人として尊ばれ、家族や隣近所と温かな絆を保ちながら、地域の一員としてつながりをもち、共に手を携え、支え合い、助け合い、安心して暮らし続けていける地域社会とも言えるのではないのでしょうか。自分が必要とされている、という事に大きな意義があるようです。

この様な社会を実現するためには、行政による福祉サービスはもちろんでありますが、法律・条令・規則等から漏れる人、該当にならない人で、本当に支援が必要な人への福祉サービスは私ども社協やボランティア活動や街づくりに取り組む方々による、協働で進める時代に入っているのではないかと思います。その様な意味合いから、私ども社協では10年前から138町内会に呼びかけ、町内会における独居老人等に対する対応等についてのアンケートを実施し、集約した後、小地域福祉ネットワーク活動推進会議を開催し、事例発表や意見交換の場を設けています。

昔のことわざの「向こう三軒両隣り」「遠くの親戚より近くの他人」が大事な時代なのかと強く思います。個人主義、プライバシーとかでなかなか難しいようではありますが、このことわざを考えた昔の人たちが、将来を見越していたとするならばものすごい先見の目があったとつくづく思います。

最後に平成17年に策定した地域福祉実践計画の基本目標であります「だれもが安心して暮らせる、支え合いの街づくり」のための一つとして10月1日から赤い羽根共同募金が始まり、更に12月1日より歳末助け合い募金が始まります。集まった募金は全道で広域的に使われたり、市内の恵まれない方々に少しでも温かく、明るい正月が過ごせるようにと願っての福祉灯油事業など社協の事業であることを、ご理解とご協力を頂ければ幸いに存じます。

なお、お手元に社協設立以降の主な動き、社協の機構、平成17年度の事業実績についての資料をご参照いただき、より一層のご理解とご協力を賜りますよう、今後ともよろしくお願い致します。

貴重な時間を使わせていただき、ありがとうございました。

